

救急医療情報と脳卒中の治療を考える

北見市医療福祉情報連携協議会では、北見市と北見地区消防組合と連携し、高齢者の情報を共有する「北まるnet救急医療情報」を開始しました。そこで今回は、12月5日に開催される市民フォーラム「救急医療情報と脳卒中の治療」で講演される社会福祉士の武田学さんと、救急救命士の高橋府史さん、北見赤十字病院の木村輝雄先生にお話を聞きました。



木村先生 武田さん 高橋さん

北見地区での救急搬送の件数が年々増加しているんですか？

過去5年を見ても平成27年が5,296件、28年が5,530件、29年が5,662件、30年が5,848件そして令和元年は6,030件と増加傾向にあります。

どうして増えてきているんですか？

高齢化に伴って急な病気になる可能性も高くなるため、必然的に救急搬送件数が増え、高齢者の割合は65%になっています。

救急搬送の際に困ることがあるようですが？

現場には早く到着しても、家族や親戚などの同意がなければ、搬送先や治療も決められないので、最小限の情報として身内の連絡先を取得しなければなりません。しかし、今は単身世帯が増えているため情報を取ることは容易ではありません。そこで患者さんの情報を一元管理する北まるnet救急医療情報が必要になってきたわけです。

「北まるnet救急医療情報」はどのようなものですか？

患者さんの氏名、住所、連絡先、それから病名と薬の情報、緊急連絡先、ケアマネジャーの名前、介護保険のサービス情報などを、救急隊、医療従事者、介護従事者が共有するためのシステムです。

救急隊の方は搬送時間の短縮につながるわけですね？

多くの市民の方が登録すると、現場に到着する前に緊急時の連絡先やかかりつけ医もわかるので効率よく搬送できます。

ケアマネジャーの立場からその有効性を感じられますか？

北まるnetの対象は65歳以上の方が要介護認定を受けている方ですが、救急搬送されそのまま入院した場合でも、担当するケアマネジャーや包括支援センターへ速やかに連絡が入るので、自宅での情報やこれまでの経過、本人や家族の意向などが医療機関へ伝わりやすくなります。

点で「時間との戦い」になります。オホーツク唯一ということ、管内全域から受け入れるということですか？

紋別や遠軽、斜里などからも、時間のロスがなく安全に搬送される状態であれば、救命救急士の判断で二次医療圏を超えて北見赤十字病院へ搬送され、t-PAや血栓回収などの超急性期医療を受けることができるようになります。その反面、問題は発症しても救急車を呼ばずに「様子を見る」ことが治療を遅らせる原因となっています。

地域の皆さんに脳卒中を知ってもらう啓発活動が必要ですね？

12年前からオホーツク脳卒中研究会というNPO法人を運営し活動しています。1つは、脳卒中という病気を理解していただく市民講座です。脳卒中の予防、リハビリテーションを含めて、脳卒中になってからの対応など、自分の体は自分で護ることを一緒に考えるという啓発活動を行っています。2つ目は、医療従事者と介護従事者のスキルアップや連携などを目的に、学術講演会や講習会などの勉強会を行ってきました。

3つ目は、オホーツク圏の脳卒中患者の疫学調査を行いました。オホーツク圏では年間約1,100人

情報も更新されるので、介護が必要な方にとっても、とても安心できるシステムだと思います。

救急医療情報以外に、市民にとつてどのような利点がありますか？

北まるnetへ登録しておくことで病院とケアマネジャーだけではなく、救急隊も介護サービス事業者も必要とする情報を必要な時に、必要な機関で見ることが出来ます。特にコロナ禍においては、要介護状態の方にとっては多くの人との接触は避けたいところなので、そういった意味でも北まるnetの活用が望まれると思います。

医療機関として北まるnet救急医療情報の利点はなんですか？

救急搬送されても、既往歴や内服薬などの医療情報や家族の緊急連絡先などの個人情報も事前にわかっていれば、一刻も早く治療が必要な脳卒中や心疾患などは、すぐに適切な検査や適切な治療を少ないリスクで受けることができます。最近では施

の脳卒中患者が発生しています。脳卒中の種類や重症度、年齢、性別、地域、治療転帰、再発率などを調査し、脳卒中の予防や治療に役立てています。これからは、行政や消防、医師会、薬剤師会なども協力し合って活動を継続していきます。

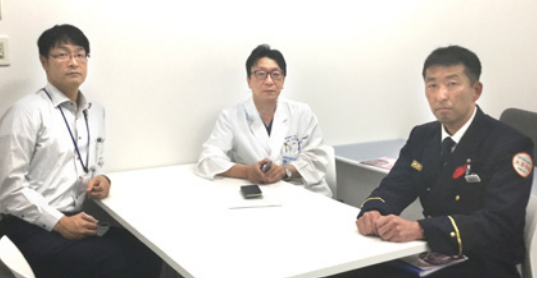
脳卒中にならないためのアドバイスをお願いします。

脳卒中は予防と早期発見が可能な病気です。次に紹介する「脳卒中予防十か条」で、脳卒中の発病、再発を予防していきましょう。

脳卒中予防十か条

- ① 手始めに高血圧から治しましょう
- ② 糖尿病放っておいたら怖い残る
- ③ 不整脈見つけたり次第すぐ受診
- ④ 予防にはタバコを止める意志を持って
- ⑤ アルコール控え目は薬過ぎれば毒
- ⑥ 高すぎるコレステロールも見逃すな
- ⑦ お食事の塩分・脂肪控え目に
- ⑧ 体力に合った運動続けよう
- ⑨ 万病の引き金になる太りすぎ
- ⑩ 脳卒中おきたらすぐに病院へ

脳卒中の危険因子は、ほとんどが生活習慣病といわれるものです。皆さんの生活習慣をもう一度見直し、脳卒中を予防していきましょう。



左から武田さん、木村先生、高橋さん。

行える「専門治療」です。脳梗塞が完成されてからでは、これらの治療は大きなリスクも伴うため、脳梗塞が完成されるまでの間に治療を始めるべきではないという

3つ目は、オホーツク圏の脳卒中患者の疫学調査を行いました。オホーツク圏では年間約1,100人

北見市医療福祉情報連携協議会 市民フォーラム 第15回 オホーツク脳卒中市民講座

救急医療情報と脳卒中の治療

もしもの時の安全を考える

日時 **12月5日** 14:30~16:00

会場 **ホテル黒部** (北見市北7条西1-1) 対象 一般市民、医療介護関係者

定員 **150名**

※新型コロナウイルス感染防止の会場設営のため、定員を限らせていただきます。当日はマスクの着用にご協力頂くとともに、お申し込みした方でも当日は発熱のある方は入場できません。

参加無料

お問い合わせ先
北見市医療福祉情報連携協議会
TEL:0157-23-2787

第1部 / 活動報告 14:35~15:10

もしもの時の安全を考える
～北まるnet救急医療情報の取り組み～

北見地域介護支援専門員連絡協議会 会長 **武田 学 氏**
(北見市医療福祉情報連携協議会 / ヒューマンネットワーク部会長)

北見地区消防組合消防本部 救急企画課長 **高橋 府史 氏**

第2部 / 講演 15:15~16:00

事前の患者情報の重要性和脳卒中の治療

北見赤十字病院 脳神経外科部長 特定非営利活動法人オホーツク脳卒中研究会 理事長 **木村輝雄 先生**
北見市医療福祉情報連絡協議会 会長

お申し込み方法

ハガキまたはインターネットによる事前申し込みが必要です。

インターネットの場合は当協議会ホームページからお申し込みください。

北まるネット

ハガキの場合は、代表者氏名、住所、電話、参加人数を記載の上、下記へ郵送。
〒090-0036 北見市幸町3丁目1-24 北見医師会内
北見市医療福祉情報連携協議会 事務局

お申し込み締め切り / **11月27日(金)** ※ハガキの場合は必着

主催 / 北見市医療福祉情報連携協議会、特定非営利活動法人オホーツク脳卒中研究会、北見市・北見市医療・介護連携支援センター
後援 / 北見医師会、北見保健所、国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター

携帯電話からもお申し込みできます。